

---

# ライバルのこ・こ・ろ？

usa

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ライバルのこ・こ・ろ?

### 【NZコード】

N7930Y

### 【作者名】

us a

### 【あらすじ】

『ライバルのひ・み・つ?』 番外編。

工藤新一のライバル、上坂凜の過去や、あの三人との出会いも明らかに。

本編を先にお読みください

## ○ … あの頃 …

私達、いつまでも凜様のお側にいます

あたし、マジですよ！

久美だつてずっと一緒にですよー。

あれはもう、四年も前になるかしさ。

中学一年生の春のこと。

私は、母と一人で暮らしていたアメリカを離れ、故郷である日本に帰ってきた。

五歳になつた頃、警察官である父が逮捕した男に誘拐されるまでしか過ごしていないから、ほとんど記憶もなく、これと言つて感じることもない。

ただ、日本語は懐かしいと思えた。

金髪や青い目に戯れていた私は、久々に見る黒い髪や目に戸惑つた。

私は本当に日本人だつたんだと、改めて思った。

「凜。あなたはね、これからここで暮らすのよ」

約八年ぶりに見上げた我が家。

母は私にそう言つたんだ。

「明日からは、米花中へ通う。いいわね？」

私はこくりと頷いた。

「久しぶりだから、色々戸惑つことはあるかもしれないけど、早く慣れましょうね」

「…はい」

正直、どうでも良かった。

どいじで暮らそうが、どいじの学校へ通おつが、私はいつでも一人だつた。

五歳のときには、私は人間としての感情を全て捨てた。

他の人間なんて、信用できない。

いつかは本性を現して、誰かを裏切る。

いちいち信じるなんて、馬鹿を見るだけだ。

子供ながらに、あの時感じたんだ。

あの男、父が逮捕し、私を誘拐した男は、最初はいい人だと思つていた。

『おじさんは君のお父さんのお友達なんだ。ずっと仕事ばかりなんだろ、お父さん。それなら、少し懲らしめてやる』

あの男は当時幼かった私にとつては、子供を助けてくれるヒーローのようだつた。

淋しかつた。

刑事だからと、いつも家を空けている父。

母は母で、辛さを誤魔化すように遊んでいた。

あの頃私の側にいたのは、安い給料で雇われた家政婦だけだつた。

けれども、その人からも愛情を感じたことはない。

いつもいつも、面倒臭そうに私を見ていた。

毎晩、月に向かつて囁いていた。

「私の本当のパパとママを返して」

つて。

私は両親を、偽物と思っていた。

だから私のことを、ずっとほつたらかしにしてるんだ、と。

いつか本物の両親が現れて、幸せになれる。

そう信じていた。

もし彼らが私の本当の両親だとしたら、これは賭けだつた。

私がいなくなつたら、二人はどう反応するのだろう。

慌てる？

悲しむ？

それとも…ホッとする？

知りたかった。

私は僅かな期待を胸に、男の提案にのつた。

両親は私を愛してくれているのだろうか。

答えは…否、だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7930y/>

---

ライバルのこ・こ・ろ？

2011年11月23日17時50分発行